

**演題：試験・検査・分析－研究開発－コーディネート活動・産学官連携**  
**宮澤武矩（財団法人長野県テクノ財団アルプスハイランド地域センター**  
**コーディネーター）**

私が、現在所属している長野県テクノ財団は「地域経済の活性化と発展のために産学官連携による高度技術開発と人づくりによる新産業創出の支援を行う」という目標を掲げて活動を行っております。

私たちの行うコーディネーター活動は「地域の企業に対して、大学・公設試験研究機関や企業の技術シーズやノウハウ等を紹介し、地域企業の新たな産業分野への進出や、新技術の開発等を行う活動が円滑に推進されるよう支援活動を行う。また、国の産学官連携に関する補助金・委託制度の紹介や、申請手続きの手伝いをし、技術開発への資金支援も積極的に行う」というものです。したがって、信州大学と企業との共同研究をコーディネートしたり、研究会で講演をしていただく等の企画をさせていただいております。

私が長野県テクノ財団に籍を置くようになって6年目になりますが、その間に直接立ち上げたり主催した主な研究会としては、マイクロ加工機開発研究会、DTF研究会、微細レーザー加工技術研究会、先端金属加工技術研究会、インテリジェント感圧センサ応用機器開発研究会等ではありますが、DTF研究会などは国際フォーラムを開催するまでに発展しております。

また、研究会活動を通じて、先生方と企業の技術者が顔見知りになり、信頼関係ができて共同で技術開発へと進んでいるものもあります。しかし、新技術の開発、新製品の開発が2～3年の研究会活動で成果を上げることの出来るほど簡単なものではありませんが、研究会会員同士が顔見知りになり、情報交換から技術協力まで発展し、互いに協力し合うという大きな成果もあげているものもあります。

私が企業の皆さんにお会いして、今どのような課題を持っておられるか、どのような開発テーマを持っておられるか等をお聞きしてコーディネートをする際、以前勤務していた長野県精密工業試験場（現在の長野県工業技術総合センター精密・電子部門）での技術的経験及び人脈ネットが大変役立っております。

私が、精密工業試験場に勤務していたときの仕事は、製造企業から持ち込まれる機械製品、電気製品、プラスチック製品、半導体部品等で起こる故障やトラブルの原因究明や解析が主でありました。この原因究明や解析には「試験・検査・分析」という手段を用いてきました。このときのテクニックと解析力が原因究明の成果に結びつき、さらには製造企業の明暗に結びつくので、常に緊張とプレッシャーの中で仕事を進めていました。原因究明のためには、高額な測定機器も必要になるので、国の補助金を得て大がかりな研究開発も行いました。対象とする企業は、長野県内の製造業が主ですが、特殊な試験にお

いては他県の企業からも持ち込まれることもありました。そのため、製造企業の開発部門、技術部門の多くの方と顔見知りになることができました。

現在のコーディネート活動では、企業の責任者の方と話を進める場合が多いのですが、具体的な技術の話になると技術の方の同席でコーディネートをする場合もあります。

今、国を挙げて産学連携・産学官連携を目標に掲げ、長野県テクノ財団においても同様な目標を掲げてコーディネート活動を行っており、多くの大学と連携をしております。信州大学とも多くの事業で連携をさせていただいていますが、工学部、医学部、繊維学部との連携が多く、理学部との連携が少ないので、私自身大変気になっているのが実感です。理学部という性質上、企業との連携が少ないわけですが、機会をみて理学部の先生方のご協力をいただきたいと思いますので、その節はよろしく願いいたします。

以上